

無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究(無 02-06-1/5)

目 的

風俗・慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等についての全国的調査を行い、その成果をデータベースとして構築する。さらに研究協議会の開催を通じて各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、具体的保護施策の実施に資する指針を作成し公表する。

1 無形民俗文化財の伝承・公開の実態調査

成 果

本年度は、現在における民俗芸能の伝承活動としてユニークな試みを行っている例として、中国地方の神楽を取り上げた。広島県・島根県では、本来地域の祭礼で行われていた神楽が、「スーパー神楽」等と呼ばれて舞台公演され、一般にも大きな反響を得ている。この例として、島根県出雲市で開催された競演大会を調査した。あわせて、同地域で行われながら、競演大会には参加せず地域での式年奉納の様式を守っている大元神楽の事例も比較対象として調査した。また岡山県では、同地を代表する神楽である備中神楽が、岡山市という都市部でも有志によって公演されるようになってきている。岡山市の神楽は民間の上演施設を利用して稽古および定期公演を行っているほか、伝統的な上演演目だけでなく、岡山を代表する桃太郎伝説をもとに新しい演目を創作するなどの活動も行っており、この事例についても現地調査を行った。

また、千葉県館山市・南房総市で伝承されるミノコドリについてこれまで現地調査を行ってきたが、この民俗芸能が今年度、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財に選択された。この選択の過程が現地に及ぼす影響を考察すべく、選択対象となっている館山市波左間、および南房総市川口のミノコドリについても現地調査を行った。あわせて同事例の類例として、南房総市小戸の初午祭、茨城県小美玉市竹原の祇園祭、石岡市三村の祇園祭についても現地調査を行った。

公開の実態調査としては、関東、近畿・東海・北陸、中国・四国、及び九州の各ブロック別民俗芸能大会、地域伝統芸能全国フェスティバル等の公開確認調査、犬山祭における常設展示施設調査を実施した。

さらに、新たに無形の民俗文化財の対象となった民俗技術の伝承状況の調査として、七夕馬の製作技術の調査を行った。事例として、千葉県茂原市、福島県いわき市の七夕馬製作についてそれぞれ現地調査を行った。両事例とも、地域社会において七夕馬を製作する技術は伝承が困難になっており、地域博物館における体験学習などを通して伝承が保証されている実態が明らかになってきた。

論文等掲載数 1件

- ・宮田繁幸「無形文化遺産保護における国際的枠組み形成」 『無形文化遺産研究報告』1 pp.1-26 07.3

発表件数 2件

- ・宮田繁幸「無形文化遺産保護条約と日本の芸能」 楽劇学会第54回例会 東京芸術大学 06.12.13
- ・俵木悟「東京文化財研究所の無形文化遺産保護のための取り組み」 第30回文化財の保存修復に関する国際研究集会 東京文化財研究所 07.2.15

2 無形民俗文化財研究協議会

成 果

日 時：2006年(平成18年)11月22日(水)10:00~17:30

会 場：東京文化財研究所セミナー室

参 加 者：115名

プロジェクト研究 Area1,4

テーマ：民俗技術の保護をめぐる

趣旨：無形文化遺産部では、旧芸能部の時代から、保存関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して民俗芸能の保護と継承について研究協議する会を開催してきたが、今回より対象を無形の民俗文化財一般に広げ、新たに「無形民俗文化財研究協議会」として開催することとなった。第1回に当たる本年度は、新たに無形民俗文化財の指定・選択の対象となった民俗技術を取り上げ、「民俗技術の保護をめぐる」をテーマとして開催した。民俗技術として最初に国の重要無形民俗文化財の指定を受けた3件のうち2件の事例報告を含む、5名からの報告が行われ、この報告をもとに、コメンテーターやフロア参加者も含めた全体的な協議を行い、多くの文化財行政担当者や研究者、伝承者の方々の意見を求めた。協議の成果は報告書として刊行した。

プログラム：

10:30～10:40	挨拶	鈴木規夫（東京文化財研究所長）
10:40～10:50	趣旨説明	俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）
10:50～11:20	「民俗技術」創設の背景と課題	大島暁雄（東京文化財研究所客員研究員）
11:20～11:50	民俗技術保護のための行政的取り組み	菊池健策（文化庁文化財部伝統文化課）
11:50～13:30	（昼食）	
13:30～14:00	現存する民俗技術の全国的な動向と問題点	真島俊一（TEM 研究所長）
14:00～14:30	上総掘り技術の伝承活動について	井口崇（袖ヶ浦市教育委員会）
14:30～15:00	津軽海峡周辺地域の和船製作技術	昆政明（青森県立郷土館学芸課）
15:00～15:20	（休憩）	
15:20～17:20	総合討議	
	コメンテーター	西和夫（神奈川大学工学部教授） 斉藤修平（埼玉県立歴史と民俗の博物館）
	コーディネーター・総司会	俵木悟（東京文化財研究所無形文化遺産部）

また、平成15年度より継続開催している「無形の民俗文化財映像記録作成」小協議会について、平成18年度は4回の協議を行った。その成果は、一部を『無形文化遺産研究報告』に発表したほか、平成19年度に『無形の民俗文化財映像記録作成の手引き』（仮称）として刊行する予定である。

第9回：2006年5月12日（金）

第10回：2006年7月7日（金）

第11回：2006年10月6日（金）

第12回：2007年2月23日（金）

論文等掲載数 1件

・俵木悟「無形民俗文化財映像記録の有効な保存・活用のための提言—情報の共有と開かれた利用の実現に向けて—」 『無形文化遺産研究報告』1 pp.41-50 07.3

報告書刊行 1件

・『第1回無形民俗文化財研究協議会報告書 民俗技術の保護をめぐる』 東京文化財研究所 07.3

研究組織

宮田繁幸、俵木悟（以上、無形文化遺産部）、大島暁雄、服部比呂美（以上、客員研究員）